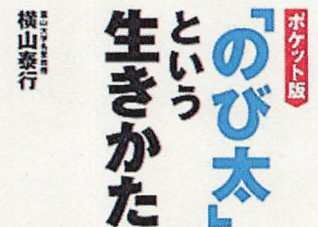
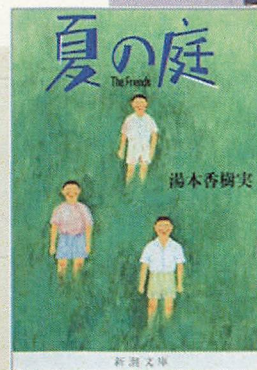
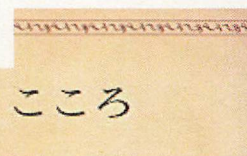


令和 2 年度 読書寸感文集

浜松工業高等学校 図書委員会



1	学年	科	寸感文
クラス	1年	C	主人公、折原安音は、クラスメイトからのいじめで自殺した。しかし目覚めると、目の前に天使が現れ、49日間で天国か地獄、どちらに行くか決めろと言われる。幽霊となり自分がなくなった世界に来た安音はそこで初めて、本当の友情、親からの愛情、自分の想いに気づく。予想外のラストにあなたもきっと感動するでしょう。この本は、命の大切さ、生きることについて深く考えさせる素晴らしい物語です。
書名	天国までの49日間		
作者名	櫻井千姫		

1	学年	科	寸感文
クラス	1年	C	私はこの本を読んで学んだことがあります。それは、「過去は消えてゆくものじゃなくて、心の中に残り続けてゆくもの。」ということです。この言葉は主人公の恋人である美咲が言った言葉です。時間が流れていくこと、置かれた状況がどんどん変わっていくことに恐怖を覚えても、大切な人と見た景色や思い出はこの先どれだけ時間が流れても変わらないという意味だと思います。だから私も大切な人と共に生きている喜びを心から感じたいです。
書名	桜のような僕の恋人		
作者名	宇山佳佑		

1	学年	科	寸感文
クラス	1年	C	この本は、タイトルの通り、身近な物事に関する科学に触れている本です。私はこの本を読んで、もっと沢山の身近な科学について学びたいと思いました。 この本は、5つの章があり、章ごとに触れているテーマが違います。更に、その部分から細かく話が枝分かれしていきます。どの話も図解付きで、重要な所は濃く色付けされていて簡潔にまとめられているので、科学を学びたい時に手に取り易い一冊だと思いました。
書名	図解 身近にあふれる「科学」が三時間でわかる本		
作者名	左巻健男		

2	学年	科	寸感文
クラス	1年	D	初めてこの本を読んだ時、私の心に刺さる何かを感じた。この物語は、バスが湖に転落する事故で家族や恋人、友人など湖に沈んだはずの死者からメッセージが届くという不思議な話である。この本は私に命や愛する人の大切さを教えてくれた。もし、自分が命を落とした時、私の大切な人をなくした時は、涙を流し流されるだろう。メッセージを辿ると死者からたくさんの愛を感じる。愛は人が生きていく中で最も大切なものだとは私は思う。
書名	午前0時の忘れ物		
作者名	赤川次郎		

2	学年	科	寸感文
クラス	1年	D	「心配しても明日の悲しみが減るわけでは無い。心配は明日を生きる力を奪うだけだ。」私はこの言葉に感銘を受けた。毎日前を向いて失敗してもまた立ち上がり、同じ失敗を繰り返さないようにすればいいと思う。「人生の安定感とは、不確実さに立ち向かうなかで得られるもの。」完璧なだけが良いことではないと気付かされた。人生は苦しいことや辛いことを乗り越え、色々な経験をして成長できたり人として強くなれると改めて思った。
書名	私は私のままで生きることにした		
作者名	キム・スヒョン		

2	学年	科	寸感文
クラス	1年	D	私はこの本を読んで細胞や遺伝子などの生命の根本的な仕組みを知りました。それと同時に人間とは、生きるとは何なのか、自分の命や自分自身を見直すきっかけを作ることにも出来ました。どのような生命の働きがあって生きているのか、私たちは普段の生活であまり気にしません。ですが私はこの本に出会って「生命」というものにもっと目を向けるべきだと学びました。これからはより命について深く考え、大切にしていきたいです。
書名	池上彰が聞いてわかった生命のしくみ 東工大で生命科学を学ぶ		
作者名	池崎博史 田口英樹		

3	学年	科	寸感文
クラス	1年	A	僕が今回読んだのは、九十九%のありがとうという本だ。ありがとうは、誰もが一度は言ったことのある言葉だろう。この本の中に「ありがとうの連鎖」という言葉があり、僕の心の中に大きく響いた。僕自身も、一人で生きているわけではない。多くの支えがあって今を生きている。そう考えれば、ありがとうと感謝を伝える人は永遠にいて、そしてそれは一生涯続いていく。これからの人生。この言葉を、忘れずに悔いのない生き方をしたい。
書名	99%のありがとう		
作者名	藤田正裕		

3	学年	科	寸感文
クラス	1年	A	「我が国は、今年、領海内で水爆実験を行います。その他、核実験も行いますし、武力で他国を侵略します。」そんな衝撃的な一言から物語は始まる。その後も、熱帯雨林の伐採や、象牙を入手することを後進国のある国が宣言した。各国代表は猛反発した。しかしどうだろうか、今反発している国も過去には同じ事をしていたではないか。と僕は気付いた。「過去だから」で済むのは不公平な気もする、考えさせられる作品だった。
書名	後進国の権利		
作者名	山野ねこ		

3	学年	科	寸感文
クラス	1年	A	終戦後、満州からの引き揚げの壮絶な旅程をリアリティを持って書かれている。作者(藤原てい)が命懸けで子供の命を守り抜こうとする姿に心を打たれた。その時の子供への愛情がどれほどすさまじいものだったかがこの作品を読んで計り知ることができる。この本を読んで一番感じたことはもう二度と戦争を起こしてはいけないということだ。これからも平和な時代が続くことを祈るばかりだ。
書名	流れる星は生きている		
作者名	藤原てい		

4	学年	科	寸感文
クラス	1年	P	かがみの孤城は中学生の不登校の人達が突然、鏡の中に入って不思議な体験をするという物語です。私に年齢が近くて他人事ではなく、自分の事だと思って読めました。いじめが起き不登校になり誰にも言えず、主人公は引きこもってしまったのですが、鏡の中で起きた出来事をきっかけに相談して解決することができました。私はこの本で、主人公と同じように悩んでも親や先生、友達に悩みを相談することが大切だということを学びました。
書名	かがみの孤城		
作者名	辻村 深月		

4	学年	科	寸感文
クラス	1年	P	この物語は過去と現在で故郷の街並みや人々が大きく変わってしまう物語です。主人公の迅は少年時代に閩土という友人がいて、よく遊んでいました。そして二十年後、迅は変わり果てた閩土の姿に身震いし、二人の間を隔ててしまいます。その後、迅は仲良く遊ぶ宏児と水生を見て、新しい生活を持って欲しいと願います。迅と閩土が昔のように兄弟のような仲を取り戻すにはどうしたらいいか考えさせられる話でとても面白かったです。
書名	故郷		
作者名	魯迅		

4	学年	科	寸感文
クラス	1年	P	この本は、全盲になった河合さんが教師になるという夢とパラリンピックの水泳に出場するという夢を叶えるまでの苦労などを描いた本です。この本を読むと何か自分が壁にぶち当たっている時にもっとがんばろうという気持ちになり勇気がもらえます。みなさんも何か挑戦したいことがあったり壁に当たった時などにこの本を読めば、きっと勇気がでてきて前に進めると思います。ぜひ見てほしいと思います。
書名	夢追いかけて		
作者名	河合 純一		

5	学年	科	寸感文
クラス	1年	Ma	この本では大人には無い子供の良い部分について書かれている。子供は大人とは違って現実世界ではなく、真実の世界に住んでいるということがよく分かった。真実に世界に住んでいるからこそ、物事の大切なことを見抜く力を持てると書いてある。しかし、今の自分にこの力を持っているかなんて分からない。この力は自然に身に付き、成長すると自然になくなっていく。深く考えると、とても珍しく不思議な力だと思った。
書名	星の王子さま		
作者名	サン テグジュペリ		

5	学年	科	寸感文
クラス	1年	Ma	今回読んだ本から、人の命の尊さだけでなく、人の心が私利私欲によって簡単に動かされるものだと感じた。唯一、人に死を告げることのできる死刑判決、それがとても慎重に行われていることがよくわかった。そしてお金を出して、その判決を左右させた、犯人には、とても腹が立ちました。そして、お金によって左右されたことにより、人間の心の弱さを改めて感じることができました。とても自分のためになる本を読むことができた。
書名	死刑評決		
作者名	大門 剛明		

5	学年	科	寸感文
クラス	1年	Ma	僕は、のび太という生きかたという本を読みました。この本は、ドラえものの主人公のび太の良いところをまとめたものです。のび太の良いところの一つとして、何度失敗しても、くじけないところが良いと思います。僕は、高校に入って経っていないので失敗を恐れている部分があると思います。そんな時はのび太の様に、失敗しても次は頑張るというポジティブな考えで生活していきたいと思います。
書名	のび太という生きかた		
作者名	横山 泰行		

6	学年	科	寸感文
クラス	1年	Mb	この本はベンチを温めている落ちこぼれ学生たちが駅伝を走る物語です。主人公はバレーボール部のエースでしたが、右膝の靱帯を痛めてしまったからベンチになってしまいました。僕も中学2年生の時に左膝の前十字靱帯を損傷してしまったことがあるため主人公の苦悩に共感することができました。他のキャラクターも一人一人自分の中の壁を乗り越えようとする姿勢が見え諦めない心が大切だということを学びました。
書名	ベンチウォーマーズ		
作者名	成田名璃子		

6	学年	科	寸感文
クラス	1年	Mb	この本は恋愛小説です。この物語のヒロインはある病気に侵されており、最終的に死んでしまいます。この物語の中で、主人公やヒロイン、その周りの人々の感情が変化しているとわかる描写がいくつもあります。その描写を読むことで、私は今まで深く考えることのなかった生きることについて考えることができました。この小説は登場人物の感情の描写が分かりやすく、とても情景を想像しやすく、読みやすいと思いました。
書名	君は月夜に光り輝く		
作者名	佐野徹夜		

6	学年	科	寸感文
クラス	1年	Mb	毎日遅刻をし、みんなを裏切る、そんな人を多くの人は悪く思うだろう。見たままの評価をし、深く考えず印象づける。その人が大事な合唱コンクールのソロパートを歌うと決まった時、僕だったらどんな選択肢を持ち判断するだろうと思った。この本では、クラスの中心となる人たちと練習をなんとかしていくうちに仲良くなっていく。そこから僕は見た目などで人を判断するのではなく、しっかり相手を知ろうとする事が大切だと思った。
書名	愛を知らない		
作者名	一木けい		

7	学年	科	寸感文
クラス	1年	E	私がこの本を選んだ理由は、母に勧められ読んでみようと思ったからだ。 この本は、北海道で生まれ育った中学生の高橋連は花火大会で出会った園田葵に一目惚れした。しかし二人は警察と親に引き離されてしまう。その後二人は別々の人生を歩み、最後、二人は再会するという話だ。 この本を読んで、人生は自分の思い通りには進まないが、その人生を一生懸命に生きるのが人間なんだと実感することができた。
書名	糸		
作者名	中島みゆき		

7	学年	科	寸感文
クラス	1年	E	血の繋がりが、共に過ごした時間か。もし自分が親ならどちらを選びますか。主人公の良多は、この正解のない選択の答えを出そうと、悩み、苦しみます。六年間育てた息子は病院で取り違えられた他人の子だと知り、良多のやりきれない感情が心に響きました。学歴や仕事、血の繋がりがより、大切なことがある。そして二人の父になる良多の姿に感動し自分の中で、大切なことに気付けたような気がしました。
書名	そして父になる		
作者名	是枝裕和		

7			学年	科	寸感文
クラス	1年	E			
書名					
作者名					

8	学年	科	寸感文
クラス	1年	Ei	過去は変えられない。同じ出来事でも自分と相手とでは記憶が違う。第三者が別々に話を聞けば二人の印象も全く違ってしまう。小学生の頃の「イタイ子」と「人気者」が大人になり立場が逆転する。有名人なれたことで見返せたと思うが、立場を利用して復讐してしまうのは悲しい繰り返しだ。素直に言い合え分かり合えるのが一番だ。相手の気持ちを考え、自分の言動、表情にも常に気をつけることが大切だと改めて気付かされた。
書名	噛みあわない会話と、ある過去について		
作者名	辻村深月		

8	学年	科	寸感文
クラス	1年	Ei	この本は、秘密を抱えたまま主人公、宮脇悟が飼い猫ナナの新しい飼い主を探す物語である。 飼い主候補に会いに行く時の手段は殆ど車で外の景色が鮮明に想像できる描写がとても心に残った。もうすぐ離れ離れになってしまう悟とナナが飼い主候補に会いに行く度に最後を覚悟して一部の風景も一つの思い出に残そうと大切に作る空気が伝わってくる。大切なことは特別なことでなく日常の何でもないようなことが思い出になるんだなと思った。
書名	旅猫レポート		
作者名	有川浩		

8	学年	科	寸感文
クラス	1年	Ei	
書名			
作者名			

9	学年	科	寸感文
クラス	1年	R	余命十年と宣告された主人公の茉莉は、苦しみ、悲しみながらも趣味を見つけ、恋をして十年を生きた。余命を宣告されたからこそ自分の終わりを意識でき、充実した時間を過ごせたのだと思う。逆に、余命のわからない僕たちには命の終わりを意識することが難しい。だから、日頃から将来を見据えることは大事なのだと思った。そうすることで日々努力し、成長することができるのだと思った。未来に希望を持ち生きていきたい。
書名	余命10年		
作者名	小坂 琉加		

9	学年	科	寸感文
クラス	1年	R	自分がこの本を読んで感じたことは、覚悟と決意はちがうということです。主人公はとある理由で、未来の自分がいなくなってしまうことを知ってしまいます。主人公がその時、何を思ったのか僕にはわかりませんが、主人公が覚悟をもって未来に進もうとする姿の心を打たれました。決意を固めた人を見ても今まで何も感じてこなかったのが、主人公がかっこよく思えました。僕も覚悟をもって物事に挑戦していきたいです。
書名	また君と出会う未来のために		
作者名	阿部 暁子		

9	学年	科	寸感文
クラス	1年	R	
書名			
作者名			

10	学年	科	寸感文
クラス	2年	C	この物語は、死に興味を持った三人の男の子が、近所の今にも死にそうなおじいさんが死んでいく所を観察して、「死」と向き合って考える話だ。 最初は怒っていたおじいさんも、いつしか少年達が来るのが楽しみになり、少年達も観察対象から好きなおじいさんになっていくが、あっけないおじいさんの死。 夏の庭を読んでみて、友情に年齢は関係ない事を知れた。又、死について考えられました。
書名	夏の庭		
作者名	湯本香 樹実		

10	学年	科	寸感文
クラス	2年	C	この本は今生きている日常の時間、普通に生きていることがとても幸せなんだということを実感できる本です。主人公の健康な女の子が最初自殺しようとするのを「死ぬなら僕に時間をちょうだい」と健康ではない男の子が女の子の自殺を止める場面から始まります。そこから二人の無謀で壮大な挑戦が始まり、その途中の困難を乗り越える場面がとても感動します。最後まで泣かずには読めない本だからぜひ読んでみてください。
書名	あの夏を生まれた君へ		
作者名	水野 ユーリ		

10	学年	科	寸感文
クラス	2年	C	この本の物語は、高校生の真司が同級生の花森から「死者」の未練をはらし、あの世へ導く「死神」という仕事に誘われる。そして、死者の未練をなくしていくという物語です。この物語は、死者たちが抱える、切なすぎる未練やそれを解決していく中での死者との対話から、大切な物は亡くなってから気づくという事に付いて知ることができる物語でした。他にもいろいろな事を考えさせられる、ものすごく感動する物語です。
書名	時給300円の死神		
作者名	藤まる		

11	学年	科	寸感文
クラス	2年	D	この本は奈良で朝昼晩、朝ごはんしか出さない店の話です。この本を読んだときはとても心が温くなりました。この話にでてくる店主の朝ごはんに対する思いなどが、細かく書かれていて感動しました。朝ごはんて一日が始まるので、この本を読んでからは、毎日今日も頑張ろうという気持ちになりました。ごはんは人の心を温かくしてくれるのだと改めて感じました。また人生のことも語られていて生きていく中で大切なことを学べました。
書名	奈良まちはじまり朝ごはん		
作者名	いぬじゅん		

11	学年	科	寸感文
クラス	2年	D	その時だけの衝動的な感情で、とり返しのつかない事をしてしまう可能性は、誰にでもある。小島さと子はその時助けに来なければ、遠藤真弓は娘の彩花を殺してしまっていたかもしれない。家族の仲が良く、そんな事件とは無縁だと思われていた高橋家ではそれが起きた。事件は遠藤家で起きていたかもしれない。「夜行観覧車」というタイトルにあるように、明かりの消えた暗い街を高い所から見ても、その家の事情は誰も知れないと思った。
書名	夜行観覧車		
作者名	湊かなえ		

11	学年	科	寸感文
クラス	2年	D	この本は短い文章が何個も書かれていて、一日にココまで読む！と決めやすくてとてもためになる本だ。私の一番好きな所は、「金より時間」という所だ。お金は、どんな職業についたのか、自分がどのように働いたかで変わる。でも、時間は皆平等で同じスピードで年をとり同じ分だけ与えられる。そんな時間をどれだけ有効活用したか、うまく利用した人がこの世の成功者だ。と書かれた文章にとっても元気づけられ頑張ろうと思った。
書名	やりたいことをやれ		
作者名	本田宗一郎		

12	学年	科	寸感文
クラス	2年	A	私はこの本を小学六年生のころから繰り返し読んでいます。この本の魅力は正直言ってよく分からない。しかし私には繰り返し読む理由がある。それは、この本が、「先生と私」「両親と私」「先生と遺書」と分かれているからだ。それぞれをバラバラの順番で読んでいくとより理解が深まり興味深く読むことができるのだ。先生は友人Kの自殺により毎日悔んで生きている。そんな切ない感情を「私」に打ちあけた遺書は心が絞められるようだ。
書名	こころ		
作者名	夏目漱石		

12	学年	科	寸感文
クラス	2年	A	私は父に勧められこの本を読み始めました。この物語は一生に1度だけ死者との再会を叶えてくれる生者と死者の仲介である使者、その役目をもった祖母と後継者である孫が能力を繋ぐ物語である。孫が使者として依頼人に触れ、その役目の意味を学んでいく。私はこの本を読み、死後の世界は誰にもわからず、人は生きているだけで苦しみもがき続けるけど死んでしまったら物のように代わりは決まっていなくて、だからこそ流れている時間を苦しんでもいいから大切に生きる必要があると考えさせられました。
書名	ツナグ		
作者名	辻村深月		

12	学年	科	寸感文
クラス	2年	A	この本は、悩んでいる人が他人を妬むことなくありのままの自分として生きていくための心のあり方の話である。人は、みんな好きになれない自分があり、他人からの目を気にしながら生きている。自分の全てを愛し、周りの目なんていっさい気にしない人はいないだろう。そんな中でも、少しでも自分を認め、考え方・思い込みを変えていけばすごく生きやすくなるんだと思った。私も、好きになれない部分はあるが、認めてあげたいと思う。
書名	私は私のままで生きることにした		
作者名	キム・スヒョン		

13	学年	科	寸感文
クラス	2年	P	私はこの本を読んだ後、自分も頑張ろうって前向きになれた。人は底辺にいても本人が変わろうと言う意思があって実行すれば努力が実と思った。私も部活で高校から長距離から短距離2種目を変えて1からのスタートでとても大変だし、みんなについていくので苦労している。でも、この本のおかげで勇気づけられたし、自分が(こうなりたい)と言う目標に向かって努力していけば、主人公のように成功できると思うので頑張る。
書名	学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話		
作者名	坪田信貴		

13	学年	科	寸感文
クラス	2年	P	
書名			
作者名			

13	学年	科	寸感文
クラス	2年	P	
書名			
作者名			

14	学年	科	寸感文
クラス	2年	Ma	主人公は猫に本を救って欲しいと言われ、三人の迷宮に挑みます。その三人に挑むたびに成長していく主人公に感心しました。4人目が現れ、主人公はその者に「本は“人を思う心”を教えてくれる」と言います。この言葉はとても印象に残りました。私達は、感情を持っています。それは、身近な本からも教えてもらっていたのだと気づきました。この本を読んだことでより多くの心を知りたくなり本を読みたいと思うようになりました。
書名	本を守ろうとする猫の話		
作者名	夏川草介		

14	学年	科	寸感文
クラス	2年	Ma	夏目漱石のころは、私がこの夏読んだ中で一番印象的な本だった。この作品は三角関係のもつれや、友人同士のすれ違いから人間という生き物の本質を描いているように私は思う。Kを裏切り、失望させ、自殺へと導いた自責の念や、登場人物の自分本位な考え方から、この物語の登場人物は非常に人間らしいと感じた。この作品は明治時代から愛され続けている名作なんだと改めて感じた。
書名	ころ		
作者名	夏目漱石		

14	学年	科	寸感文
クラス	2年	Ma	このお話は外国の作品なので名前が覚えづらく読むのが大変でした。ですが一人一人の設定、場面ごとの感情が細かく表されていました。1人目が殺されてから歌詞の通りに次々と進む展開にどきどきと緊張が止まりませんでした。また歌詞にそってというのがより恐怖心を強めました。次に誰が殺されてしまうか分からない状況下で、焦ったりおびえたり疑ったりと人のもつべき感情が本当に細かく描かれおもしろかったです。
書名	そして誰もいなくなった		
作者名	アガサ・クリスティー		

15	学年	科	寸感文
クラス	2年	Mb	今年は太平洋戦争が終わって75年ということで、昔買ったこの本をもう一度読み返してみようと思った。他の本やテレビで見るとも最前線にいた兵士たちは過酷な状況で戦っていたことがわかった。また、特攻による戦果、日本軍の問題点などをくわしく書いてあり、とても興味深かった。戦争はしてはいけないけれど、当時どうして戦争が起こり、今どうすれば戦争を防ぐことができるかを考えることが大切だと思った。
書名	日本軍兵士-アジア太平洋戦争の現実		
作者名	吉田裕		

15	学年	科	寸感文
クラス	2年	Mb	私は、この本を読んで自分自身がこうして当たり前のように生きられていることの幸せ、喜びを感じることができました。この作者の方は、子供の頃、とても苦しい生活をしていました。時には、公園で寝泊まりすることもありました。しかし、現在はお笑い芸人として活躍されています。世界をみれば生活に苦しんでいる人はたくさんいます。自分が過ごしている環境、生活に日々感謝しながら生活していきたいと強く思います。
書名	ホームレス中学生		
作者名	田村裕		

15	学年	科	寸感文
クラス	2年	Mb	吃音症の中学生が過ごす日常の物語のこの本を読んで私は主人公の何年も理解されない悲しみや怒り、心の痛みが伝わってきました。 今まで吃音症という症状を知らなかった私ですがこの物語を通して理解を深めることが出来たと思います。普通喋れること、当たり前なことが出来ないことが分かってもらえない苦しみ、世界中でこの吃音症に悩んでいる人たちがいたら理解をした上で接してあげたいと思いました。
書名	僕は上手にしゃべれない		
作者名	椎野弥		

16	学年	科	寸感文
クラス	2年	E	争いのないツチガエルの国の話だか読み進めていくと日本の現状が表されている事に気がついてゾワゾワした。平和が一番で誰もが争い事はしたくない。争い事をしないのは素晴らしい事だかいざ敵が責めてきたらどうするのか？カエルの世界の物語から憲法9条について考えさせられる話だった。僕を含めて大半の日本人は、平和ボケしているのかもしれない。政治に興味のなかった僕だか、日本に危機感を感じた。
書名	カエルの楽園		
作者名	百田 尚樹		

16	学年	科	寸感文
クラス	2年	E	この話は王子様の色々な生物や物に対する心情の変化と理解からいくつかのメッセージが伝わった。 どんなものも時間をかけて寄り添うことにより、自分の中でかけがえのないものになり得ると分かった。目先の価値に捕らわれないことで、人生をより明るいものにでき、心へのゆとりを持つことができる気がした。 絆を深くすることが温かい人生を送る鍵なのだと頭の隅にでも覚えておきたい。
書名	星の王子様		
作者名	サン＝テグジュペリ		

16	学年	科	寸感文
クラス	2年	E	
書名			
作者名			

17	学年	科	寸感文
クラス	2年	Ei	私はこの本を読んで中学生生活の頃を思い出した。私は中学生の頃には少なからずいじめを受けていた。そのため、この話に出てくるよだかの気持ちがよく分かる。自分には変えようがない事なのに言ってくるのだから自分を否定されるようでとても辛くなる。よだかのように本当に自殺まで追い込まれてしまう人もいるのだから、互いの個性を尊重し合い、いじめなどは絶対になくしていかなければならないと思う。
書名	よだかの星		
作者名	宮沢賢治		

17	学年	科	寸感文
クラス	2年	Ei	変化を恐れず、現状維持を恐れる。というのがこの本のテーマだった。客観的に考えれば当然だと思うようなテーマだが、実際多くの人々が変化への恐れからチャンスを逃している。ではどうすれば変化への恐れをなくせるのかを考えると、まずは本にも書かれているように変化を楽しむことが必要になると分かる。さらにもう一つ必要なことは知識をつけることだと考えた。だから私は様々な学びを通して恐怖を克服できるようにしたい。
書名	チーズはどこへ消えた？		
作者名	スペンサー・ジョンソン		

17	学年	科	寸感文
クラス	2年	Ei	この本を読んだきっかけは、僕の好きな芸能人の方が紹介していたからです。この本は一人一人が特別な存在であり、脇役なんていないんだという伝えてくれます。自分の人生に希望を待てと言っているような本です。この本から、僕は下を向かず、常に上を向いていきたいなと思いました。そして、周りの人も自信や希望が持てるように自分が引っ張っていったらいいなと思いました。
書名	ないものねだりの君に光の花束を		
作者名	汐見夏衛		

18	学年	科	寸感文
クラス	2年	R	君は龍神を信じるか。龍神とは神様の眷属、いわば運の運び屋である。 この本には、主人公のタカと妻のワカ、ワカを守る龍神ガガが織り成す、運気上昇を目指す日々が描かれている。中でも印象に残ったのは、『耳の痛いことも受け入れて、ダメな所を直す事が成長である』という話だ。自分の行動にも、他社への反抗的な心が表れてしまう時がある。逆境にあたっても素直で、また心が自立した頼られる存在になりたい。
書名	妻に龍が付きまして・・・		
作者名	小野寺S一貴		

18	学年	科	寸感文
クラス	2年	R	「おまえ、生まれてこなきゃよかったな。」 そんなショッキングなセリフから物語は始まります。この本を読んで一番に思うのは「心なんて簡単に殺してしまう」ということです。些細な言葉がどれだけ人を傷つけてしまうのかを実感します。ですが言葉は人を救うための道具にもなります。そして間違っていることを間違っていると言える強さは、周りの人たちをも変えていくことができる素晴らしいものだということも改めて感じました。
書名	ハッピーバースデー 命輝く瞬間		
作者名	青木和雄		

18	学年	科	寸感文
クラス	2年	R	この本は野球をすることに全力な少年たちの物語である。私がこの本に出会ったのは小学校六年生の頃だ。当時から野球が好きだった私は、この本の題名と表紙に魅かれた。そして物語を読み進めていき、改めて野球の面白さに気が付いた。その後私は高校生となり、何気なく再びこの本を手にとった。するとこの本には、野球の面白さだけではなく、仲間の大切さや学生の青春についても書かれていることを知った。私はこの本が大好きだ。
書名	バッテリー		
作者名	あさのあつこ		

19	学年	科	寸感文
クラス	3年	C	コロナ時世学校下、旅行したい思いに駆られながらこの本を読んだ。ニューヨークの人々は、一般的に冷たい印象づけられる。しかし他人だろうがお構いなしに、店番をおしついたり、時にはお金がくずせない時に手を差し投げてたり、孤独な町には住みながらも図々しく、お節介で温かい。人との繋がりに溢れた町だ。このパンデミックで人と会う機会が格段に減った。NYなど行ったことないが、なぜか人間味溢れた彼らが恋しくなった
書名	ニューヨークのとけない魔法		
作者名	岡田光世		

19	学年	科	寸感文
クラス	3年	C	読む前と読んだ後では、感じ方がまったく違った不思議な本だった。物語は一人の家庭教師の話なのですが、ただ単純に勉強を教えるのではなく、その生徒が抱える悩みや問題を自分なりの解釈と考えて乗り越えて行く主人公がメインになっていると感じた。また、ストーリー性のある本にはあるはずのない、『読者に直接語りかける』という部分があり驚いた。ストーリーの中には、私たち読者も登場人物として描かれているように感じた。
書名	家庭教室		
作者名	伊東歌詞太郎		

19	学年	科	寸感文
クラス	3年	C	私はこの本を読んで、常識にとらわれないことを学びました。超能力者はいるかもしれない、少ししたらドラえもんみたいなロボットが出てくるかもしれない、そう考えただけで何気ない日常が楽しくなってきます。歳をとるにつれて知識がつくと、子供の頃は信じていたものが違っていたと考えてしまいます。それだとつまらないから、非現実的な事でも信じていた方が心が豊かになって、楽しいと思います。
書名	後宮の烏		
作者名	白川紺子		

20	学年	科	寸感文
クラス	3年	D	主人公の男女の兄弟が性を偽って、昔の男女差別が激しい中で異性ととともに仕事や生活をしていて、性がバレないかハラハラしておもしろかったです。時代設定が平安時代だったから性を偽ることについて少し不安に感じたが、現代で考えるとそんなに偏見がないなと思いました。この本を読むことで、昔から現代にかけて心と性が一致しない人の意志を尊重する社会に変わっていることを改めて実感することができました。
書名	とりかえばや物語		
作者名	田辺聖子		

20	学年	科	寸感文
クラス	3年	D	私はこの物語を読んで、成長について改めて考えることができました。初めは帯の「不良少年の夏休みのバイトは一歳児の子守り」という文がおもしろそうだと思います。しかし、読み進めていくうちに、成長することはだんだん難しくなるけれど、生きていく上でとても大切なことだと気づけました。年を重ねるほど成長した実感は湧かなくなってしまうけれど、今回気づけたことを忘れないように頑張ろうと思いました。
書名	君が夏を走らせる		
作者名	瀬尾まいこ		

20	学年	科	寸感文
クラス	3年	D	
書名			
作者名			

21	学年	科	寸感文
クラス	3年	A	短編の中で「掟の門」が印象に残った。掟の門間に門番が立っていた。一人の男は入りたがったが門番を前にして無条件に立ち止まった。結局、男は死の間際になってなお、門を通れなかった。掟を守る人がいて存在する。もし男が掟を破り門に入れば、それは掟ではなくなる。つまり、夢は誰でも見る。しかし、夢の扉はそれに向かって進もうとする人だけに開かれる。そういうことを表す作品なのだと思う
書名	カフカ短編集		
作者名	フランツカフカ		

21	学年	科	寸感文
クラス	3年	A	人が塩の柱となってしまう「塩害」という現象により、壊れていってしまう東京が舞台。体が塩化していく描写が悲しく残酷で、しかし同時に美しくもあり、その中で描かれている人間関係もまたこの作品の魅力だと思う。「塩害」に立ち向かっていく主人公の勇敢な心や風景などの優しい表現が良い世界観を作り出しており、ページをめくるごとにこの作品に惹かれていった。人が人を思う気持ちが大きな影響を生むのだと思った。
書名	塩の街		
作者名	有川浩		

21	学年	科	寸感文
クラス	3年	A	
書名			
作者名			

22	学年	科	寸感文
クラス	3年	P	サマーウォーズを読んで私は2つの大切なことに気づいた。1つ目は、人と協力し合う気持ちをもち続けることだ。2つ目は自分自身の優れているところを見つけることだ。人と協力し合うことで想像以上の成果を出すことが出来る。しかし、その前提として自分の能力は何かを理解しておく必要がある。 私は健二のような行動力ややる気はないが、人の役に立てるように、自分には何が出来るかを常に考えて生活していきたい。
書名	サマーウォーズ		
作者名	細田守		

22	学年	科	寸感文
クラス	3年	P	この本を読んで、主人公の心の強さ、支えてくれる友達が教えてくれる言葉一つ一つにとっても感動しました。前を向いて生きる勇気を貰えて、人生の中で、やり直したいと思うことは誰にでもあるが、後悔しないように生きるには、どうすれば良いかを考えるきっかけとなりました。人生や幸せとはなにかについて考えさせられ、様々な人がいて、様々な考え方がある事を学びました。とても心が温まり、自分に素直に生きようと思いました。
書名	また同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

22	学年	科	寸感文
クラス	3年	P	私は犬を飼っています。この本には10の約束が書いてありました。特に印象に残った約束は2つあります。1つは、私にたくさん話しかけてください。人の言葉は話せないけど分かっています。という約束です。話しかける事は無駄では無いんだなと思いました。2つ目は、私は10年ぐらいいしか生きられません。だからできるだけ私と一緒にいてください。という約束です。犬は人間より寿命が短いので一日を大切にしたいなと改めて思いました。
書名	犬と私の10の約束		
作者名	川口晴		

23	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ma	この本を読んで、社会に出て働くには準備不足だと思った。だから、最初に「知仁勇」をそなえたいと思った。そのためには志と情熱が大事だと知ったので強い思いをもって「今何をすればいいのか」を真剣に考えられるようになりたいと思った。後、学校に行くのは何のためと聞かれると、勉強するためぐらいに思ってた。けれど、コミュニケーションを円滑にさせるためでもあると知りとても合点がいった。
書名	本当の「頭の良さ」って何だろう		
作者名	斎藤孝		

23	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ma	競歩を始めてすぐ、この本が本屋に並んでいるのを見て自分の為になる事が書いてあるのではないかと思いこの本を手に取りました。「仕方なく競歩やってない？」箱根を走れなく競歩に転向した主人公の八千代に指摘した蔵前とそれを受け止める八千代の強さに心を打たれました。これを読むと速く前へ進み1番にゴールしたいが走っては行けないという矛盾したマイナーな競技競歩に対しての考え方や見方が変わる作品です。
書名	競歩王		
作者名	額賀滯		

23	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ma	何事もあきらめずに挑戦し続ければ、必ずできるという事をこの本を読んで学んだ。作者は全盲と言う、大きなハンデを持ちながらも、挑戦・失敗を繰り返して弁護士になったことから、自分は五体満足なので負けてられないと思った。自分も逃げていられないと勇気をもらうことができた。作者のように、失敗してもくじけずに挑戦をし続け、成功して人に勇気を与えられる、そんな人に自分もなりたと思う。
書名	全盲の僕が弁護士になった理由 あきらめない心の鍛え方		
作者名	大胡田誠		

24	学年	科	寸感文
クラス	3年	Mb	大切な人を失うということは、どういうことだろう。私の両親はまだ健康であるし、あまり想像することができない。この本では突然、大切な人が死んでしまう。もっと楽しく過ごしたかったと後悔する場面が強く印象に残っている。今の私は、周りにいる大切な人がただのあたり前の存在として考えてしまっている気がする。今の生活があたりまえだと思わず、小さなことにも感謝していきたいと考えさせられる小説だった。
書名	天気の子		
作者名	新海誠		

24	学年	科	寸感文
クラス	3年	Mb	佃は、リコールを抱えるライバル企業に特許を渡しました。そのことから、自分の利益のためでなく、ユーザーの未来のためにものづくりをする佃の熱意は素晴らしいと思いました。私は、自分の技術を高めるために部活や実習で努力を重ねてきました。しかし、社会人になった時には自分の努力に満足するのではなく、そのまた先のことで考えなければいけないと思いました。また、佃のように夢と熱意を持ち、努力していきたいです。
書名	下町ロケット ヤタガラス		
作者名	池井戸潤		

24	学年	科	寸感文
クラス	3年	Mb	この本は隣家で飼われていたチビという猫とその家の隣に住む夫婦との物語です。チビは遊ぶのが大好きで、夫婦の家の庭によく来ていましたが、ある日、チビは事故で死んでしまいました。チビが死んでから夫婦や飼い主は落ち込んで性格も変わってしまいます。私も猫を飼っています。もし死んでしまったら考えると悲しくなります。この本からは、動物と人間の関係や命の大切さ、出会いについて深く考えさせられました。
書名	猫の客		
作者名	平出隆		

25	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ea	初めにこの本を読んだとき、なんだか怖いタイトルだと思った。「君の臓腑をたべたい」なんて主人公はサイコパスなのかな、それとも重度のストーカーなのかな、とちょっと怖くなった。でも、読み進めていくとタイトルの意味や、登場する人物たちの心情が理解することができて、夢中になって読み終わることができた。
書名	君の臓腑をたべたい		
作者名	住野 由		

25			学年	科	寸感文
クラス	3年	Ea			
書名					
作者名					

25	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ea	
書名			
作者名			

26	学年	科	寸感文
クラス	3年	Eb	この本はよくある切ない恋愛小説ののかなと読む前は思っていた。でも思っていた内容とは違い、「愛とは何か」と考えさせられるような話だった。ハルの手紙で、お互い愛したことがまるで日食のようだったと記されている。その言葉は一見素敵のように感じるが意味を考えると、とても切なく感じた。恋も愛も永遠ではなくその時の一瞬だけなのか、考えることは人それぞれで正解はないと思うが、私はその一瞬を大切にしたい。
書名	四月になれば彼女は		
作者名	川村 元気		

26	学年	科	寸感文
クラス	3年	Eb	生きることのできる日数に違いがあっても一日の価値は同じであるという考えに心を動かされた。私は平均寿命のことを考えるとあと六十年は生きることができると、明日交通事故に遭い死んでしまうかもしれない。もう二度と家族や友達に会うことができなくなるかもしれない。だからこそ今ある幸せに感謝し、一日一日を充実したものにする為、未来をより良いものにする為に選択し、「生きていてよかった」と思える人生にしていきたい。
書名	君の臓腑をたべたい		
作者名	住野　　よる		

26	学年	科	寸感文
クラス	3年	Eb	
書名			
作者名			

27		学年	科	寸感文
クラス	3年	Ei		自分の寿命をお金に換算できるとしたらどうだろう。主人公は自らの寿命を一年につき一万円と査定されてしまう。しかし、その寿命の大半を売り払い、残された人生で何をするかを考えるという話だ。私は、例え自分の人生に絶望していたとしても何かを諦めることは絶対にしたくないと思った。どんなに辛い状況でも、努力や運で人生を変えることが出来るかもしれないと強い気持ちで生きていきたい、とこの本を読んで改めて思った。
書名	三日間の幸福			
作者名	三秋縹			

27	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ei	大学生の就職活動を題材にした作品。五人の大学生がそれぞれ様々な思いで就活するリアルな雰囲気を感じられた。SNSの投稿で使われる表現が多く、現代の就活の様子がよく分かる。全ての人が他人とは異なる、特別な才能をもっている訳ではなく、特別な人間ではないとどこかで認めなければならない。それを認めてカッコ悪くても努力をし続けることができる人が現代の社会にとって必要なのだと思った。
書名	何者		
作者名	朝井リョウ		

27	学年	科	寸感文
クラス	3年	Ei	様々なカタチの家族を描いた7つの短編集。中でも「プラスチック・ファミリー」がおもしろかった。 墮落した生活を送る主人公が酒に酔って廃墟からマネキンを持って帰ってしまい、どうにも捨てられずに家族として生活をもにします。不自然な家族のために生活することで自分を見つめ直し、更生していく物語。偶像でも人にとって家族という存在はとても大切な心のよりどころなのだと思います。
書名	家族写真		
作者名	萩原浩		

28	学年	科	寸感文
クラス	3年	R	図書館戦争シリーズは、元号が昭和から変わる頃に公序良俗を取り締まる為の検閲が合法化された日本で、武装化した図書館が検閲に対抗するという話だ。私はこの話を読んで言論の自由が制限されることの恐ろしさや、普段当たり前だと思っている言論の自由が保障された社会がいかに素晴らしいことで、これを当たり前であり続けることがとても重要なことだと感じた。
書名	図書館戦争シリーズ		
作者名	有川浩		

28	学年	科	寸感文
クラス	3年	R	「過去のぼくも未来のぼくも本当のぼくじゃない。今のぼくだけが本当のぼくって言えるのさ。、、、」小蛇が放った言葉から、今を見て生きるべきだと学んだ。過去・未来を憂いて今が見えず、小蛇を困らせる父母の姿は、私を投影するものだったからだ。作者は「未来の芽」を摘むべきか提起した。そこでマズローの欲求第5階説を想像して、今という基礎が固まれば、自然に付随すると考えた。この蛇の教訓を心と目で受け取めたい。
書名	ヘビの恩返し		
作者名	安東みきえ		

28	学年	科	寸感文
クラス	3年	R	
書名			
作者名			